

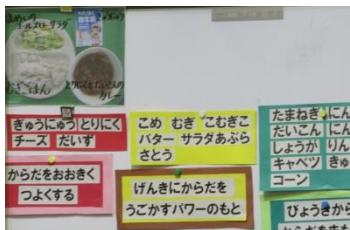
<指導の実際>

① 教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・スクールダッシュボード、ScTN、自作アンケート

○心配な児童を抽出することができ、指導:机間指導の際に声掛け、ヒントを与えることができた。複数のデータをとることにより、データの信憑性が増した。

●おはようメーターのデータをそのまま授業に生かすのは難しい。



手だて② 身近な給食を活用した授業

当日の給食の献立を例にして、給食が栄養バランスがとれていて健康によいことに気付くようにし、食事と健康の関係を自分の生活に引き寄せて考えられるようにした。

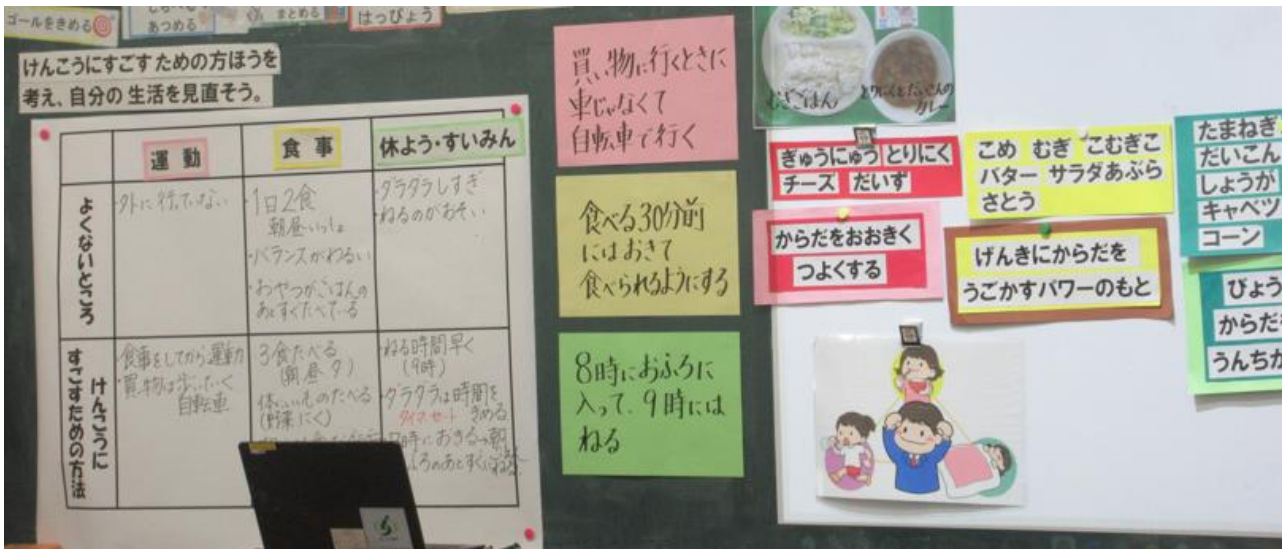


手だて③ 教師の悪い生活表の提示

教師の生活表に問題点を多く組み入れ、児童がどんどん気付きを発言しやすくなるようにし、教師や児同士の対話で課題設定や改善策の提案等を進められるようにした。

② 指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応

<授業後の板書>



<協議会>

授業者の意図・反省

【安達教諭】

- ・「自作アンケート」、「さいたま市学習状況調査『生活習慣等に関する調査』」、「おはようメーター」、「ScTN」のデータを活用して、児童の実態を把握した。学級の傾向を把握するだけでなく、心配な児童を4人抽出し、机間指導の際に意識して声掛けを行い、本時のめあてが達成できるように支援した。
- ・教材研究を重ねることで、改善策を具体的に考えられるようにするためには教師のモデルをもとにした話合いの段階で具体例を多く出すことが大切だと気づき、話合いの時間を確保した。また、自分の生活を改善することを意識できるように、生活表に赤で修正を書き込ませるように工夫した。

- ・児童の反応がよく、楽しく学習することができた授業になったと思う。「自分の立てた目標を意識して生活するために壁に貼る」という意欲的な考えも児童同士のやり取りの中で出たと授業後に聞いた。授業中に取り上げられなかったのは残念だが、教材研究を重ねた甲斐があったと感じた。

【吉田教諭】

- ・授業の流れは、児童の思考がスムーズに流れるように意識して組み立てた。教材研究に大変時間がかかったが、その成果が出たと思う。
- ・給食の時間を活用して、児童の様子を継続的に見取っていきたい。

研究協議(○成果 ●課題)

【教育データの活用について】

- データを基に授業を計画することで、支援の仕方や声掛けが具体的になっていた。
- データと実際の児童の様子を照らし合わせて見ることも重要であると実感した。

【授業について】

- 教師によるモデル提示(良い例・悪い例)が効果的で、児童の気付きや発言が増え、思考を促していた。
- 児童にとって身近な生活場面を扱うことで、内容を自分事として捉え、意欲的に話し合う姿が多く見られた。
- 教師と児童の対話的なやりとりが授業のリズムを生み、安心して発言できる雰囲気づくりにつながっていた。
- 協働・対話的な学びの点では、友達と意見を交流する中で、共感・改善案の広がり・他者の考えをもとにした深まりが見られた。
- 授業後の児童の生活の変容を継続的に見取る工夫があると、更なる「深い学び」につながると考えられる。

今後に生かしたい点

- 発問の吟味→思考の流れにつながる問いを、より意図的に設定したい。
- データを取るだけで終わらず、授業中・事後にどう生かすかを明確にする。
- 子どもにとって身近で具体的なモデルの提示
- よくない例をあえて示し、気付きから改善を考えさせる展開
- 協働学習を取り入れ、対話を通して考えを深める。

指導講評

教育課程指導課 中学校教育係 指導主事 千葉 啓太 先生

- ・健康とは何かについて子どもたちが自分事として捉えることは難しいため、子どもたちに落とすのがむずかしい。しかし、とてもしっかり授業研究されているという印象だった。
- ・健康について3年生で知識として学び、自分にできることは何なのか自分で考えることができた。
- ・課題を見つけるためには、三要素、またその調和を続けること、これを知識として獲得することが大切
→知識を与えると自分事として捉えることまで行かない
- ・教師が悪いモデルを示すことで、子どもたちが考える、会話の中で知識を獲得・確認していったところがよかった。
- ・調和のとれた生活となった時、土日の生活を示したことで、それぞれのつながりを感じられるものになっていた。また、会話の中で発問に近い会話をしていた。子どもの発言を予想していたからではないか。発問に対する子どもたちの発話が理にかなっていた。
- ・子どもたちの気付きとなる効果的な発問があった。
- ・知識を獲得しながら、自身の生活を確認できた。→クラスの実態を把握したからこそ子どもたちに迫れる。
- ・机間巡視の中であえて解決に向けた声を掛けている。→データで見取りをしているからこそ。

- ・思考の過程:実生活を振り返る→比べる→見つける、課題に気付く→具体化する→試してみる
→実態に合った課題が出てくる
- ・今回の授業では、自分の生活で何を変えられるか考えることで、自分の生活の基盤が作られる。
→自分でタイムマネジメントができる、自己管理能力につながる
- ・小学校3年生での気付きはとても大切
- ・吉田先生の話は調和を大切にされたお話だった。→C:今日の学びが3つつながった状態で終わられた。
⇒TTの意味がある授業だった。
- ・子どもたちがチームプレーで解決できたのは、普段の指導が出ている。

健康教育課 健康教育係 主任指導主事 西片 隆晴 先生

- ・3年生の発達段階でスムーズに授業が流れたのは素晴らしい。→教材研究や日頃の学級経営から
- ・授業準備や教材研究が今日の授業に集約されていた。
- ・データ利活用の良さ:子どもたちへの意図的な指導、見届けができる

① 教育データの活用

しかし、あくまで自己申告であり、正直な回答であるとは限らない

② 目的達成のための手段

使用目的を明確にし、必要なデータを選ぶ。授業ありき。

→児童自身がデータを活用する場面があってもよい。

例:自身のおはようメーターを振り返る時間

家庭が関わってくることから、一概に指導が難しい単元であるため、自身のものを振り返るとデリケートな問題についても解決できる。

③ 児童の全体像を見据える

子どもたちが発信したものに対してフィードバックを返す→学ぶ意欲にもなる

- ・スクタンの「学びの調整力」→子どもたちのつまづきを把握